

議員定数検討会における議員定数についての考え方、意見等

定数案	考え方、意見等
30人 (現状維持)	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数は、人口、面積、財政力などから総合的に判断する必要があると思うが、議員の削減が議会改革やコストの削減であるという考えは評価しておらず、こういった考えの下で削減された他団体の定数と比較することはいいとは思っていない。空港があり、特区に指定されているなど、議会としても、多くの知識と対応が必要となる。人口推計でも、成田は減少がほとんどないとされ、特殊である。 ・定数を減らすということは、民意の反映に取り組むべき議員自らの手で、その機会を減らすことになる。また、市政を監視する目が少なくなる。 ・単なる多数決ではなく少数派の意見も取り入れて決めていくというのが民主主義だと思うが、議員定数の削減により、選挙の段階で振り落とされ、少数派の意見が議場に届かなくなり、幅広い市民の意見集約が難しくなるといったことも考えられる。 ・議員定数の削減は、一見わかりやすい経費削減に見えるが、目に見えにくい無駄遣いを見過ごすこととなり、市全体の経費削減にならないということと、二元代表制の一翼を担う議会の機能低下につながり、市民の市政への参加の権利を減らしてしまう危険性があることを市民に伝え、それを理解してもらった上で、市民が本当に削減を望むのかということを考えてい。 ・今、議会ができることは、身を削るアピールではなく、議員の働き方の改善や議会の情報公開、議会が何をしているかを知ってもらう努力と、市民の要求に応えて、より良い議会の姿を市民にアピールすることだと考える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の声を聴く、反映させていくということが一番であり、議員定数を現状から減らすことは難しいと考える。 ・空港や特区などのプロジェクトや予算規模、面積などから考えても、30人でも足りないくらいであるが、議員定数30人というのは妥当であると考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成14年の議員定数に関する検討では、類似団体と比較しても課題が山積し、国際空港を抱え、人口増加の可能性が高く、予算規模も20万人規模の市と同等であり、面積も広いことから、30人が妥当とされた経緯がある。 ・人口がほぼ同じ類似団体と比較しても、30人という定数はおかしくはない。 ・常任委員会の審査処理件数の均衡を図るため、3委員会×10人でどうか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・30人で議会を運営していて特段困ることがないので、今のままでいいという気がしている。 ・議会は、市民の声をきちんと聴いて判断する場所であるが、市民が気付かないところもあるわけで、議会の中での議論は、きちんと議員がやっていくべき。
	<ul style="list-style-type: none"> ・議会の機能面から、何人がいいのか積み上げていくのがよく、常任委員会の数や人数など、その他いろいろな考え方があるだろうが、そのあたりを議論していく必要がある。 ・他団体と比較するより、成田の実情を踏まえ、成田の定数をどうするかということを検討していくべき。

議員定数検討会における議員定数についての考え方、意見等

定数案	考え方、意見等
28人 (2人減)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済環境と建設水道を合わせ、常任委員会を3つにし、審査案件数の平準化を図る。本市議会では会派は3人以上からとしているので、各会派から1人は入れるようになる。委員会は9人構成で、9人×3委員会で27人。奇数にしたのは委員長裁決があることも考慮した。なお、この場合は、議長は委員会を抜けることとする。 ・ 常任委員会の数は4つのままで、議長も委員として含め、全て7人構成で、28人とする考えもある。 ・ 空港や特区などもあるが、これまでの法定の定数、類似団体における平均が約26人ということ、人口規模や財政規模、監視機能、市民ニーズの反映等を踏まえて検討した。 ・ 委員会の定数から考えると、10人を超えると議論が進まず、6人を切ると全体の意見としてまとめるのが難しい。奇数だと委員長裁決の機会ができるといったことも踏まえ、奇数の委員会構成でどれくらいできるかを考慮して、28人を導き出した。
24～25人 (5～6人減)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各議員が市民の意見や自分で勉強したことを一般質問等で議会に持ち込んでいて、情報の共有ができていたので、20人程度でも大丈夫と考える。 ・ ただし、今後、議員に女性や若い人が増えてくるようであれば、新たな視点からの課題も出てきて、定数を増やするという議論も出てくるかもしれない。 ・ 委員会の定数は6人でも大丈夫と考え、6人×4委員会で24人とか25人でよいのではないかと考える。
意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員長裁決も考慮して、委員会の定数は6人より7人のほうがよいなど、委員会の数などについても考えていく必要があると思った。 ・ 委員長裁決ができることだけに重点を置いて、委員会の定数を奇数にしなければならないというわけではない。 ・ 常任委員会数を3つにすることについて、総務と教育民生は議案数が多い中で、その後に所管事務調査があり、時間がかかる。件数が多いと質疑の準備にも時間がかかり、詳細は質疑で答えると言っているが、質疑がないと内容がわからないようなこともあり、委員会数を減らしてしまうのは疑問に思う。 ・ 委員会の数について、過去の議案件数だけを見て決めるのはどうかと思う。今後どうなるかはわからない。 ・ 議員定数を決めるのに、委員会の数や定数が決まらなくてはできないということではないと思う。